

## ソマリア沖海賊対策活動

2012 年 6 月 12 日 担当：濱本正太郎

### 予習課題

海賊・海上暴力行為についての一般論については、以下を参照されたい。

- 酒井啓亘ほか『国際法』（有斐閣、2011 年）第 3 編第 2 章第 2 節 2
- 森川幸一「海上暴力行為」山本草二（編集代表）『海上保安法制』（三省堂、2009 年）293 頁

ソマリア沖海賊対策活動については、まず酒井ほか『国際法』COLUMN 3-3 を読み、何が問題なのかを考えてくること。

国際機構による取り組みとしては、国連([UN News Centre](#)にて”somalia”で検索)・[国際海事機構\(IMO\)](#)など、NGO では ICC の [IMB](#) がある。

日本政府の取り組みについては、[外務省サイト](#)・[防衛省サイト](#)・[国土交通省サイト](#)・[海上保安庁サイト](#)を参照のこと。また、[日本船主協会サイト](#)も参考になる

[先月、「EU 海軍」がソマリア海岸（陸地）を攻撃した](#)。いったいいかなる法的基礎を有するのだろうか。また、このような動きは「グローバル・ガバナンス」の観点からどのように評価すべきだろうか。あわせて考えてきておいてほしい。

ソマリア海賊問題に関する最近の文献としては、たとえば以下のようなものがある。これ以外にも数多いので、自分で検索されたい。

- Masataka Okano, “Is International Law Effective in the Fight Against Piracy?”, *Japanese Yearbook of International Law*, vol. 53, 2010, pp. 178-202.
- 坂元茂樹「ソマリア沖で拘束した海賊に対する対応について」[海上保安協会『平成 22 年度 海洋権益の確保にかかる国際紛争事例研究（第 3 号）』](#)（2011 年）85 頁
- 杉木明子「『国家建設』モデルの再考序論——ソマリア沖海賊問題と『ソマリア国家』の事例から」*国際法外交雑誌* 110 巻 1 号（2011 年）76 頁
- 高林敏之「『ソマリア海賊問題』を生み出したもの」*歴史学研究* 862 号（2010 年）37 頁

このような「海賊」問題は東南アジアでも以前から生じている。ソマリアの場合とどのように異なっているだろうか。

参考 [外務省](#)・[海上保安庁](#)・[ReCAAP](#)

東南アジア海賊問題については、たとえば以下の文献がある。

- 深町公信「国際海峡における沿岸国と利用国との協力」栗林忠男・杉原高嶺(編)『日本における海洋法の主要課題』(有信堂、2010年) 104頁
- 山田義彦「海洋セキュリティと海賊問題」海外事情 54 卷 11 号 (2006年) 2頁
- 梅澤彰馬「アジア地域の海賊対策に向けての法的枠組み」国際法外交雑誌 103 卷 1 号 (2004年) 107頁